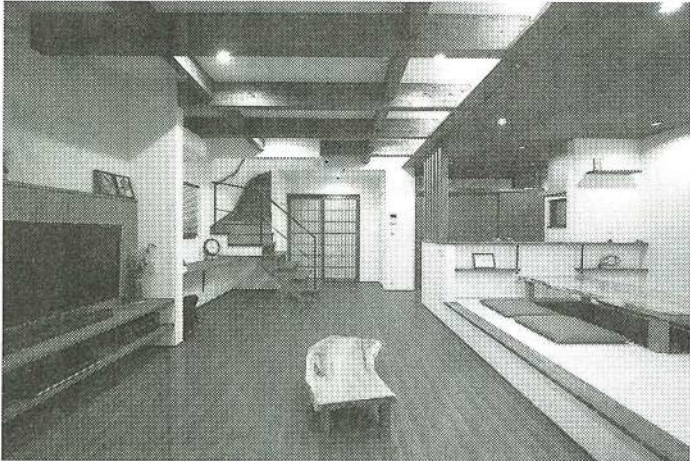


ポラテック

GD賞をアピールポイントに

『和美庵』シリーズ 個人邸で初の受賞

ポラテックグループのポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎代表）の注文住宅ブランド「ボウハウス」の『和美庵（わびあん）』シリーズが2018年度のグッドデザイン（GD）賞を受賞した。同シリーズでの受賞は5回目。これまで受賞は展示場のモデルハウスだったが、個人邸での受賞は初めてだ。受賞した物件は「和×おもてなし」をコンセプトとしたもの。同社では設計室に所属するデザイナーが「当社が住宅のデザインを売りにしている以上は、GD賞は購入検討者へのアピールになる」（ブランド企画課・坂本佳子課長）ことから、03年の初受賞から積極的に取り組んでいるという。同社では、セミナーと住宅見学会などを組み合わせ、購入検討者の要望をじっくり聞くことでデザインなどを提案して他社との差別化を図っている。



和の雰囲気を生かしたLDKと床座

デザイン力を生かした提案も

今回GD賞を受賞したのは、17年7月に引き渡しを行った埼玉県川口市内の物件。和モタンのテイストを前面にしている『和美庵』シリーズで、おもてなし空間とプライベート空間を分けた「寛ぎの邸宅」。審査員からも「和の雰囲気を生かした素朴な住宅が実現されていて良い」と評価された。

木造軸組工法（ポラスオリジナル金物工法）の2階建て。敷地面積は118・01平方メートル、延床面積は113・02平方メートルあり、間取りとしては3LDK（4LDK対応）となっている。同社が『和美庵』シリーズでGD賞を受賞したのは5回目。これまでは、展示場のモデルハウスにおいての受賞だったが、個人邸では今回が初めての受賞だ。

また、購入者の要望に合わせて①展示場②入居者宅見学③建築中の物件④の見学会を実施する。今回のGD賞受賞物件も建築主の協力もあり、現在も見学会が行われている。

「設計が入るタイミングで、なぜそういう住宅を希望するのかをじっくり聞く時間をもち」（畑係長）。

購入検討者から希望を聞いたうえで、同社のデザイン力を生かした提案をしていくと、「他社との違いを理解してくれる」（畑係長）という。そのため、今回のGD賞受賞物件では契約から着工まで4カ月を要している。同社では現在、所属する9人のデザイナーがGD賞などにチャレンジすることで、「全体的なレベルアップにもつながり、お客様への提案にも反映される」ことから、今後GD賞には積極的に取り組んでいく考えだ。

受賞作品のデザイナーである東武設計室の畑宏樹係長は「プランの提案に際しては、実際に建築現場を見て、周囲の住宅の窓の位置などを確認。通風計画などを考慮した提案を行った」という。注文住宅は、複数戸から構成される分譲住宅とは異なり、隣接する住宅との親和性を重視。「周囲の住宅とのつながりを意識したデザインがGD賞受賞の要因になっている」（坂本課長）と強調する。

同社では、購入検討者が展示場に来た場合、毎週開催しているセミナーに誘導。セミナーでは、ポラテックグループの紹介やボウハウスの技術力を構造面と設計面から説明を